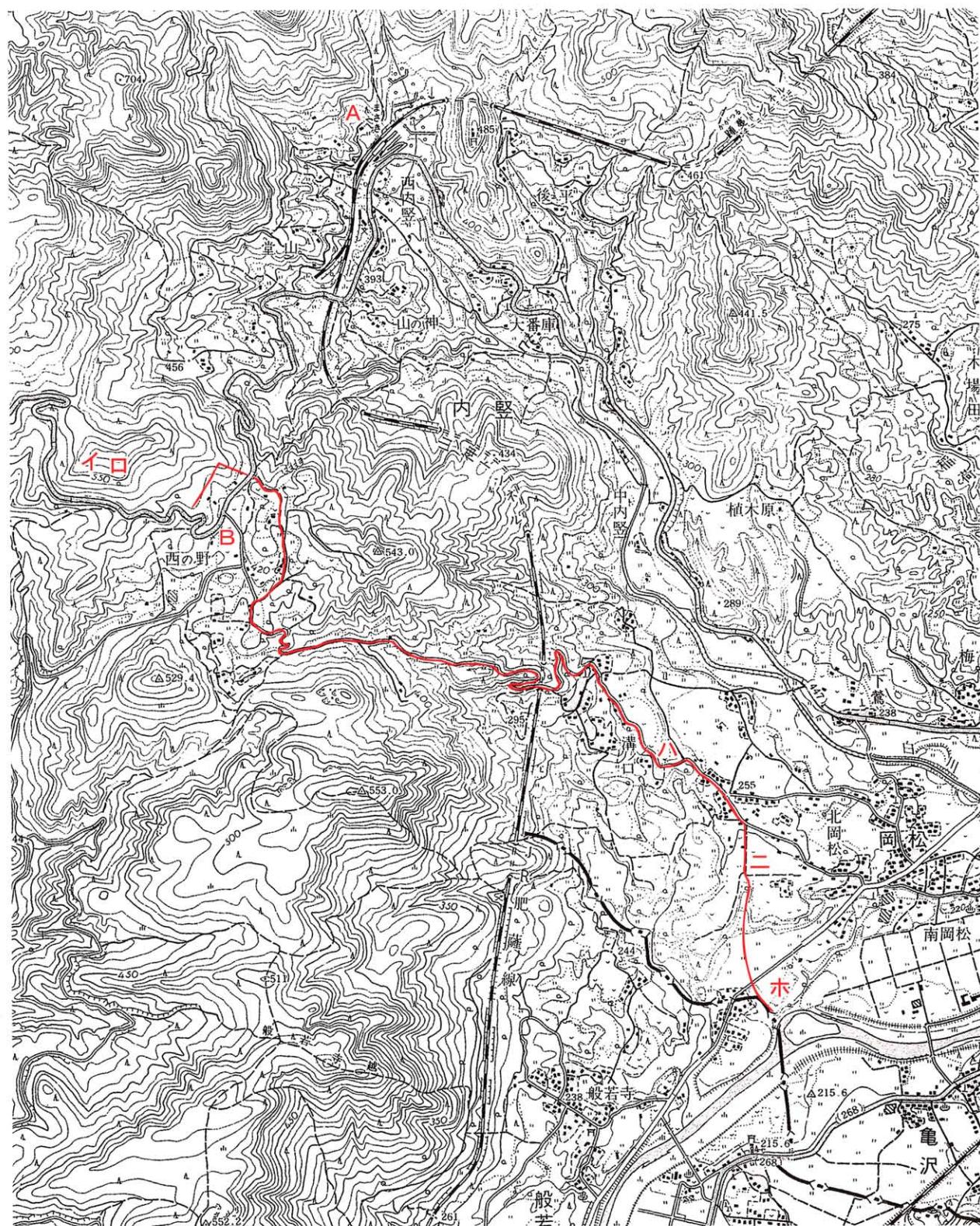


国道447号線を大口方面へ、肥薩線真幸駅（A）前を過ぎ線路を越えると、昇りにかかるが、曲がりくねった道を昇ってゆくと、やがて、丘陵上の平地になる。ここが「西之野」と呼ばれる開拓地のある地区で、大きな三叉路に出る（B）。



第1図 鉄鉱石運搬経路推定図 (1:25,000)

ここより大きく右へカーブすると人家が一軒あり、この家の後の山が「真幸鉱山」の跡地（イ・口）である。

ここで車を降りて家の後に入ると、幅3～4mのやや平坦な道が北北東へ続いているが、途中、事務所跡らしい石積の遺構が二ヶ所程あり、掘り出した鉱石を一時集積した場所もある。この辺には、鉱石を運び出すための「木馬道」が敷かれていたものであろう。

やがて、この道は東南へカーブして、先程の国道の三叉路の手前100m程の地点に出るが、この付近に、鉱石を一旦貯蔵する場所があつたらしく、ここから積出港（船着場）の赤花地区までは、雄牛に牽かせる本格的な「木馬道」が施設されていたものと思われる。

さて、そのコースであるが、そのまま国道を横切り、東へ地図上に道路があるから、こちらへ進んだものであろうが、現在は通れるような道跡は見当たらない。

100～120m程で道（その他の市道27号西之野線）は南へ進むが、緩やかな下り勾配で、先述の三叉路より本道に合流してそのまま南進し、500～600m先で道は東南へ左折して180m、更に東へ折れて1km近く、一つの丘をグルッと周回するヘアピンカーブになるが、このカーブの手前の地点で南下する近道が見えるが、木馬道としては急勾配になるので、やはり現行のヘアピンカーブの方を降ったものと思われる。

更に100m程東行すると、再び北行するヘアピンカーブに差しかかり、ここでも手前から下へ降る道があるが、こちらも急勾配なので、近道は取らなかったであろう。

西之野を通る道路は、2級市道・3号線・岡松西之野線と言う。

やがて、道は溝之口地区に入るとすぐに十字路になるが、そのまま直進500～600mで左へカーブして、やや急勾配の「赤迫」（ハ）を下り、右手へカーブして岡松地区へ入る。

溝之口からこの辺までは、2級市道・41号線・岡松西之野線であ



イ地点 鉄鉱石採掘跡



口地点 鉄鉱石採掘跡



ハ地点 「赤迫」



二地点 岡松 馬頭観音前



ホ地点 赤花渕 遠景

るが、平成19年から20年にかけて発掘調査を行った際、近くの古者が「赤迫」の下り坂の延長線上に出土した道路跡が「木馬道があつた場所だ」と証言されたようだが、この道筋を取ると更に急な勾配になり、先は水平になった場所をしばらく進むことになるので、わざわざそのような選択をするよりも、現在の市道のままの緩やかな勾配の道筋を進んだ、と考える方が妥当かと思われるのだが。

原田葉風氏の真幸鉱山史⁽¹⁾によると、「西之野から溝之口の「赤迫」を下り、北岡松の「トラセ原」の中央を南方に横切って馬頭観音社の前を下り、般若寺地区の古松と南岡松の谷口との境界線を通って川内川の「アカバナ淵」に着く道筋であった」とある。

岡松地区に入り「白石商店」の少し先より右手へ、「その他の市道・12・13・11号北岡松蓮花寺2・3・1号線」と南進して「岡松馬頭観音社」(二)へ達する(あるいは直接11号北岡松蓮花寺1号線に入ったと見る方が正しいか)。

当初、馬頭観音社の西方、16号岡松七曲2号線の方へかと思ったが、この道を行くと、赤花渕へ行くには、やや低い谷へ下りることになるので、観音社前を南行するのが正しいようである。

そこで、社前の農道を南下して

みたが、突き当たりは崖になり、右手へ通路らしい溝がくだっていたが、「木馬道」にしては急な勾配の道であった。

そこを田圃まで下り右手を見たら、追田の東側を3～4m程のなだらかな勾配の道跡らしいのが馬頭観音社の方へ続いていて、上って行ったら観音社の前に出たので、この道筋が探していた「木馬道」であると確信した。

田圃の地点へ出た後は、原田氏の記述通り、湧水町般若寺地区とえびの市岡松地区の境界付近を鉱石の積出港である「アカバナ淵」(ホ)へ向かったものと思われる。

馬頭観音社南の低地（現在耕作放棄地）を通ったであろう、との説もあったが、実際に低地に下りてみると、東側に水路が通っていて湿地となり、梅雨期など大雨の場合には水路が氾濫すると思われるので、ここは「木馬道」を通すには適当でないと思われ、水路東で上の先述の道筋が正しいかと思われる。

註

- (1) 原田葉風「真幸鉱山史」『えびの』2号 えびの史談会 1971